



## 明治38年の小坂

町史編さん委員 阿部 正記(中世・近世・近代担当)

明治38年(1905)3月、時は日露戦争が続いている最中ですが、この頃の小坂の様子を記録している一文がありますので紹介してみましょう。

載っているのは「花輪だより・第5信」、花輪月報会が発行したガリ版刷りの薄い冊子で、戦地に赴いている郷土の兵士に地元のことを知らせるために作られました。ただ、太平洋戦争の頃の慰問文とは大分雰囲気の違い、こういう新人芸者が入ったと写真が載っていたり、都々逸(どどいつ)や面白おかしい記事もあったりして、心を休めてもらおうという気遣いが感じられます。そして、故郷の有様を伝える「小坂便り」はこう始まります。

「小坂鉦山は日増(ひまし)盛大に赴き、今では鹿角の都会になりました。人口は一万三千余にて、市街も小樽部(尾樽部)出火後、市区改正の結果なかなか立派になり、電燈は川向通り、山ノ上通、大谷地通、元山、その他各工場等を合せて三千余燈、電車は元山・精錬場間を始めとし各工場至る所に連絡し、鉄索は白沢停車場・扇ノ平間、昼夜の区別なく回転して貨物を運搬し、電話機は百二十か所に通じ、消防隊は六組より成り、元山二組、精錬場四組にて、唧筒(そくどう、ポンプのこと)七台を備え、新旧溶礦(溶鉦)には火防用水道の備えあって、構内はポンプを要せず。大煙突二ヶあって中天を貫き、其の一は世界一の最大溶礦炉六座より出づる瓦斯(ガス)を吸い上げ、口径八尺、其の二は反射炉・回焼炉の瓦斯を吸い上げ、口径同八尺、当山の名物として…」最初このように誇らし気に現状を述べているのですが、ここでその筆者が突然お笑い気分に襲われたのか、次からコント風の紹介になっているのです。

「……高いはこの大煙突と物価、長いものでは貸した金と電鍊場、堅いものでは役員の品行と黒鉦……」そして「軟らかいものでは電車に轢(ひ)かれた人の体」などと、とんでもないことまで書いています。最後は「限りないものでは小坂鉦山の繁昌(はんじょう)と元山の鉦石である」とまとめていてヤレヤレですが、太平洋戦争のときなら許されなかったでしょう。でも、子どもたちが純粋な気持ちで書き送った慰問文が兵士には精神的重圧となったという意見もありますから、こんな柔らかい文章も戦地では歓迎されたかもしれません。

また、別に社会風刺を意図したわけではないでしょうが、ここにあるように物価や税金は増大する一方の戦費を賄うためにどんどん上がり、人々は生活に苦しんでいました。たばこが専売、つまり製造から販売まで国が行うようになったのも税金を得るため、きっかけは日清戦争、本格的導入は日露戦争のときからでした。

さらに、戦費の大部分は国債や外債の発行で賄われました。国債は国民の購入による資金調達で、建て前は募集でした。応募が盛んに呼びかけられましたが実質は割当てで、事業所や大きい家がかなり無理をして買い込んだようです。それでも数円単位で日常の暮らしを送っていた時代、鹿角郡は七万円余を購入しています。そのうち小坂が二万四千元。鉦山がかなり大量に買ったと思われますが、村民の応募も少なくなかったはず。探せばどこかにあるかもしれませんが、残念ながら支払いは既に時効になっているということ。です。

## あかしや荘の回数券の払い戻しを行っています

あかしや荘の原湯からレジオネラ属菌が検出されたことから、無期限休業することとなりました。そこで、回数券を購入されている方には、次により代金の払い戻しを行っていますので、あかしや荘までお越しください。

- ◆期間 11月22日(日)までのうち、**水曜日～日曜日**
- ◆時間 9時～16時
- ◆場所 あかしや荘
- ◆払戻額
 

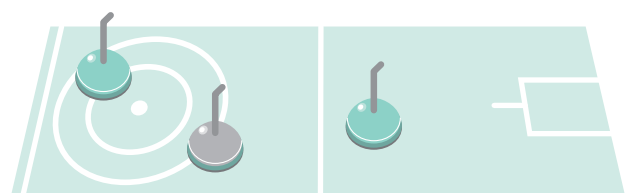
|       |              |
|-------|--------------|
| 一般    | 未使用：3,500円   |
|       | その他：〈1枚〉350円 |
| 60歳以上 | 未使用：1,700円   |
|       | その他：〈1枚〉170円 |

■お問い合わせ先  
福祉課町民福祉班 (TEL29-3925)  
あかしや荘 (TEL29-2434)

## ユニカール大会中止のお知らせ

11月21日(土)に開催を予定していた小坂町ユニカール大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を十分に講じることが難しい状況であることから、中止となります。

開催を楽しみにしていた皆さんには、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。  
来年度の参加を心よりお待ちしております。



■お問い合わせ先  
教育委員会学習振興班 (TEL29-2069)